

## 第7期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

※「介護保険事業（支援）計画の進捗管理の手引き（平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課）」の自己評価シートをもとに作成

第7期介護保険事業計画に記載の内容				令和2年度（年度末実績）		
区分	現状と課題	第7期における具体的な取組	目標 （事業内容、指標等）	実施内容	自己評価	課題と対応策
①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢化率の非常に高い本市においては、高齢者が様々な場面で「担い手」「支え手」となる。それが本市における所謂「地域包括ケアシステムの構築」に欠かせない構図であると考えている。そのことを考えれば、「元気高齢者」が多く存在することがまちづくりにも繋がるものであり、若い頃からの健康づくりと介護予防への取り組みが非常に重要である。これらのことから、住み慣れた地域で生活を続け、要介護状態となることを防ぎ、認知症高齢者やその家族を見守る支え手を育て、医療と介護の両方を必要とする高齢者を支援できる体制や現状は欠けている必要なサービスを創出していくことが、地域包括ケアシステムの構築に繋がり、元気高齢者の維持や育成に繋がると考えている。	将来的に要介護状態となることを防ぐために「介護予防講話会」を開催します。	参加者50人以上	H30年度に市制施行60周年記念事業として開催したが、類似の講演会がいくつか存在することから、他事業を充足させることとし、令和元年度以降は講話会は廃止とした。		
①自立支援・介護予防・重度化防止		高齢者が住み慣れた地域で、尊厳と生きがいをもちながら安心して生活が続けることができるまちづくりのために、関係者の情報共有と連携強化を図ります。	地域ケア会議を年4回以上開催	地域ケア会議年9回開催 ・介護、医療関係者	◎	ネットワーク構築や地域課題の解決といったステップには至っていない。目的意識をもって、ケア会議の運営方法を見直していく必要がある。
①自立支援・介護予防・重度化防止		認知症サポーターが地域で積極的に見守り応援者としての役割が発揮できるよう、再教育講座を継続します。	再教育講座の参加率50%以上	希望団体に対し、出前形式で講座を開催している。R2年度サポーター養成講座は2件開催したが、ステップアップは未実施。	×	認知症サポーターの活動場がなく、養成はしてもいかし切れていない。そのため、希望する団体がいない。コロナウイルス感染症の影響により、積極的な働きかけが出来なかった。
①自立支援・介護予防・重度化防止		医療と介護の両方から支援が必要な高齢者に対して、関係者が一体となった支援ができるよう研修等の研鑽の場を確保します。	研修会の開催と参加を、ともに年3回以上	1回開催 福祉・医療関係者に求められるコミュニケーションについて	△	コロナウイルスの影響で集合研修ができないなか、オンラインでの研修会などの、代替手段が確立されていない。
①自立支援・介護予防・重度化防止		生活支援コーディネーターの取り組みにより、地域課題に対応した新たなサービスを創出します。	計画期間中に1事業は必ず創出する	町内会単位でのサロン活動の支援など、コーディネートを進めているが、新たなサービスの創出には至っていない。	×	既存の活用できる資源をいかしていく方法も、検討していく必要がある。